



枕詞

5  
1217  
8





眞意を仰ぐ中もかくは枝  
世にまよふては中なるは  
介日の余流すてはまよふ  
能恩ハ山岳を流すはかく  
は——子情も、新前小松  
百好

芭蕉志や旅ふあふくも、  
緑

また坊

あむ小松不恩のふ可思  
文和

あふくもあせり流す  
凡番

あふくもあせり流す  
忠蒸

子の侍りあはふさ  
右耕

あふくもあせり流す  
友話

あふくもあせり流す  
里聲

あふくもあせり流す  
如髪

あふくもあせり流す  
無暈

あふくもあせり流す  
釘好

あふくもあせり流す  
以和

あふくもあせり流す  
少地

彼〜〜と上秘〜〜ぬ 和

向ふ鏡子人 知〜ぬ 櫻 梅五

訓うふ清の氣日のて〜と 菜

為ち成し〜ぬふふ心く 要松

我ふ言ふ有卦ふ入〜と春の羞 可文

一 白ふ子橋きやれ 草 條 波琴

細り糸とまい流れのすん〜と 子危

詔あり〜と 巖 一 船 板新

ま武も鑑の時もふ〜はよ げ

物言もあ〜所角ふを法む 室枝

ゆん〜と高蕭背日の芥〜と 世香

桐冠〜と 雨 鐘 啼 ぐ 朝柳

鑑計のねれまのふれ、法うと 友志

を〜ぬ内出入院布りふ 鳥橋

鑑系といえと遠ふ 契 信 法 壺池

可不難い可ふ 妙ふ 矣 息 松島

若人

三

晴やふ月の下るふ石もささ

孤雪

並にまはるゝ腰の麻子哉

孤介

心はとあふ白雲の跡を却し福り

偉皓

明際三月て雪のさゆや

波平

小言りてしるふれ我惜と今も

叔推

は心呼びて半半の志や

嬉水

添増ふもく半く徳のむ

儿徳

解光呼く水もにれさ

里木

右歌仙行

小長中の二百とを序して恒例の  
正祥忌賀節ふるふと手とまた  
作坊治世の湯とあめのみはく  
しつは道の潤りるふとくはあふ  
叶し春後かてしるるあふと  
そ新衣と袴音もあふし

たせ我忘やふとふと還子後人との

文和坊

余奥

思くく北んで雪の夕持

危隠

心くく飛く椽も在藤臺

叔新

昔くやをを比人てとあり續きあり

以和

右歌は下畧

同訓 古白表

文和坊

落とぬるをちと皆落て流す

河一瀬ふ詠くきりし山

まね

人知れなきくぬる方成なりて

志堂

良政合ふも穉ふ後連

古耕

重晴くぬるよ月の放生舎

孤休

落のたふくた入りて代や

まね

其二 古白表

張流記 志堂

百葉のそくを友よそくあり

今ふ 隔るもけり自ら互健

まね

花をくく川あり山のふもやうて

文和

指 い切つても神うけの中

蒼と

くくく月の海も小張取

古耕

麻も晴はくくくくく

涼風

其の二の巻

校諱

右耕

宿のすゝくを相のそ杜丹

を凍き〜第目の凍 更だ

文奴も〜白紙紙を捨て 文和

厨子の切り店〜お淡 以香

月〜大通り〜言 鳥鴎

雪の麻の遠〜等く とも

名塚

冬〜通〜淡路の平〜

石思

赤茶

之名の子枝〜時雨

赤茶

右耕

雪の氣や〜牛の鼻

孤牛

〜中〜

孤柳

雪〜折〜

尾枝

雪〜子〜

孤雪

木〜や〜

石思

文和

雪〜の〜

波琴

花亭や氣取くくぬも 萩 棟 寄松

まのふりよ 是も清なり 十敷子 里井

ちのまうくくぬを声なり 影 梅五

吹止くく候のゆにれり 如れ 赤 上 桑 漢

浮るまきや 如くは方まきし 凡の果 芝 堤

あられや 向さ止さくくやうさけぬ 猿 七 律 皓

あきや 如くは 如くは 如くは 小 如 女 け 番

以 如くは 如くは 科 治 の 境 幸 一 右 田 釘 好

群 控り 々々 心 あり 一 産 の 音 以 取

二 三 年 竹 植 々々 忘 此 音 三 高 鹿 鹿 鹿

水 々々 中 流 れ 々々 々々 々々 々々 是 故 推 宮 市

い ぬ 家 や 々々 々々 々々 々々 々々 々々 一 洗 年 日

置 々々 一 の 文 々々 々々 々々 々々 々々 一 左 克 山 口

ま ぬ の 糸 や 服 々々 々々 々々 々々 一 記 ぶ 々々 和 水 日

水 燈 々々 川 け 井 戸 や 々々 一 糸 壺 仏 日

ま ぬ 一 壺 々々 々々 々々 々々 一 け 桶 の 水 一 那 故 新 日



踏てくろ橋の長きや夕涼く 三平 一の丈

本〜一や洲子南うへ水くち 三平 里吉

銀るら〜橋も寂〜や冬の月 姫如

小虎念もけ〜ら目〜山折ゆら子 千亀

時ゆらや雪ふ〜り舟流の松 松島

新〜ら〜の下おぬぬ〜し〜ら〜の 好坂 け言

折れ〜し〜とあ〜の浮名〜仰りむ 三平 儿傳坊

福言やあ〜と通る路次の内 凡香

長生

経寄り一打

美のきき〜月〜ゆ〜ら〜時ゆら 再宿屋 其の歌

知〜ら〜う〜流〜を〜流〜を〜が〜の〜え また

銀湖の雪美ら〜ら〜文様〜て け香

流〜り〜霧〜の〜雪〜も〜十〜縁〜ら〜 三平 松島

山の雪〜と〜遊〜む〜月〜も〜十〜之〜歌 七夕

宿望〜し〜ま〜は〜以上人〜さ〜 其の

舟るのむしあそびふりよ

一葉のふりあそびふりよ

まじあそびふりあそび

流るる方々を別れぬ業る

廊下のももあそびあそび

すの和ふふあそびあそび

名歌

流るる中流あそびあそび

再録  
其歌

春をいよも其位あり松のむ

山里も人市のきりあそび

津波のあそびあそびあそび

春のむしあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

宮邸

雑記一紙

まじあそびあそびあそび

只今  
可文

きこし一陽 未渡の 秋  
 文和  
 祝の 柳坊 披露の 酒 歌

くひを 庭に 入り 影  
 後 柳

柳の 葉 越し 月の ちり ちり  
 如 音

高き 柳の 葉 三 浦 の 中  
 片 舟

春 柳の 葉 梅の 葉 如  
 柳 坊

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

小 柳の 葉 如 柳 坊  
 柳 坊

大 柳の 葉 如 柳 坊  
 柳 坊

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

高き 柳の 葉 如 柳 坊  
 高 柳

所用事ありはるを後程 在津

其二ニッ物

ちりきり  
舟

産ちりきり我 産をうしむるの月

田呂を産りしはりよ 枝 変に

舟よの如く不交易地ゆゑて 不白

久保

初高や舟よきりしる 甚の上 文和坊

ういふやまに流きぬ梅の灰汁 不白

義法師もさき方あふるの月 念流

芽産出りてかゝる月傍の梅木は 涙揮

又て松外堀清しき月 祝を

潑水の以よくぬしき月 在津

潔くして踏むは産葉うす 栖方

ふくふく折るは産のちりきり 了聖

とるは産ふふありきよの産 徹水

松葉うて合くし名や 康の夢 逸路

他初は晴りゆやきししの春  
 樹もよのみの迷ひし中多ふ  
 兼晴やみのるまゆく道未連  
 櫓のきふそ中をぬとけり  
 水高よりわたりゆりやゆりち  
 清くわたり流れるのふやまの音  
 吹くぬよの浪屋と掃く一まよふ  
 芳水  
 長楽  
 松壠  
 如音  
 け音  
 戸舟  
 可文

日詠

防州宮中内里の春の納の徳信は程  
 舟もよのみの迷ひし中多ふ  
 兼晴やみのるまゆく道未連  
 櫓のきふそ中をぬとけり  
 水高よりわたりゆりやゆりち  
 清くわたり流れるのふやまの音  
 吹くぬよの浪屋と掃く一まよふ  
 芳水  
 長楽  
 松壠  
 如音  
 け音  
 戸舟  
 可文

ちも輝きと流わりの光をひらき出さず  
 縁にたつちかぬ松の影を照らすかたは曲  
 ありて枝をれあがりて月影のまはり  
 さへ一ひげの影のひまもあきく  
 ちも輝きと流わりの光をひらき出さず  
 さへ一ひげの影のひまもあきく  
 ちも輝きと流わりの光をひらき出さず

けくも雪の白 おのふ庭のまゝ さら坊

久田

短分行

風 中 月 七 志 了 あり 鳴 けり

梅香 凡香

木 笑 宿 きの せよ 深 心 路 更 丸  
 斗 雲 も 獨 美 利 小 指 折 七 几 條  
 葉 さ さ 海 く 世 事 こと ぬ く 可 柳  
 星 の 海 々 夢 あり あり 孫 の 懐 け け 小 浦  
 井 戸 の 菜 根 の 葉 も ち ち 交 ね  
 ち ち も 安 居 の 写 真 飛 ぶ の ち 小 鳥  
 け ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 心 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

巻八

三

あらしららち花んでるのちれぬも

華灯

赤の透るもちのきりぬ筆

夜に

月と通りしつゆ

月花

二  
まなほふりぬ花子あはれ

其原

まろくわくまろくまの府内てふ

一考

又舟ふらぬ人扱のちしりさ

和歌

まひのまふまを積りふ

波瀬

改えも建久くおとやかふ

其産

神楽神の紙式歳

有竹

百石まきぬまの月の秋

宇植

栗の梓の書又入土産

栗香

栗のろくしはききりぬ

又岩

清の夕日のまっよあしく

暖水

遠きまふまもほくちと町

了望

花歳りまも産孫のほれ

友鶴

其二

白虎

甲子

空 揺る、折れ、竹、も雪のふ

鶴 さあやま夢も介を交 交代

つゆ **電**も 固りぬの身 故をぬりて 旧香

其之三ッ物

了 節も 柔の煮へるをうしぬ 終 志計

着 経てんて ちる、ハ 花 扇 巻 交代

よ 等も 小 瀑 念の寸と ぬり 柳 下 旧香

其四 八ッ表

端、水も 其 ぼくく の 氷、  
柳と飲 其井

等 ちるも ち ち 柳 庭 交代

ち めうぬ 振り 飯 **ま**ふ 笑 して 旧香

何 ぬ、 何 ぬと 穉の寸 此 中 其 雲

飯 乞書 小 坊 ち ち ち 柳 下 其 葉

淡 の ち ち ち 柳 下 其 葉 志 遠

意 新 了 ぼ ぼ ぼ 月 尺 酒 其 和

其 扇 子 の ち ち 柳 下 其 松



其五ニツ物

文取ほしと風の音まじりておぼえ  
小其音 痛

そのいのちあふほろろ 埋 火 更だ

ト秋家の神祕と桂葉吹て 風音

其六ニツ物

雪の口やこれわくわくも終る声  
途百三 子花

思えくはの眺め 平等 更だ

蕙揚のめしと種ふき ありて 風音

名源

心奪もあめ 浮世の故きり 志計

蕙入や花とくも母の慈よや先 其源

あふくまいと母の心 寂とけ 子危

草や河原をきくく 水の面 其花

草かりやよわくくくと被り 了花

入桐の風音か新川 其の由 暖水

鳥を中ひしきく 梅と曲宴よあう 波網

行舟や花のあはれ吐 露 けり 葦汀  
 眼ふささるぬまのまもるるての月 有竹  
 くらしくと出とあふや秋の音 一巻  
 岩の峰ふまの草や苔のむ 文路  
 花ふえし一 柳とあひまきりさの音 了凡  
 云霧少もあふる九月そ 葉香  
 あやふゆづ城むくや飯とけ 高根  
 空ふくくあふまふあふり郭ふ 霞江

永ま日や寮の眠りも板この音 一の柳  
 谷川の水ききし一 花ふふふ 心端  
 麦秋や埒りしつとて井戸の蓋 信 了極  
 ゆりふと流ふ追つ水川貝 拾ひ 了夢  
 洗濯の渾りてまふし一 ぬるま川 明彦 友勢  
 凡止て此よ流ふよ木の葉ふふ 深生 和泉  
 过君のあひはるや月 おほら 仁保 其雲  
 酒のたれ流すて春のを涼し 口 其松

真弓く待七 寄く 柳く 其の 柳

其 往く 寄七 往く 萩 此 寄

初 寄 や 元 寄 寄 寄 寄 寄

牛 鳴く 寄 寄 寄 寄 寄

同訓

松凡寄

几條坊

寄 寄 寄 寄 柳

二度の 寄 寄 寄 寄 寄

包丁の 寄 寄 寄 寄 寄

右 綴 寄 下 寄

久 保

包 入 寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄 寄 寄 寄

山 口 市 中

次 仙 行

寄 寄 寄 寄 寄

寄 寄

きふくきの夢もき 詠 夏夜

情の詩林良枝さき 出 下 梨文

意の候も茶碗さき 直 毫卜

きつこゝろ 識 華 境のきつこゝろ 下 縁楊

山形後んで多し水 揚ヶ 桑海

落りし松も月の明 秋 下 左克

神ふれきさき 龍 乳 長青

新烟草さき 吸身て 出 下 文利

市井の外にさき 下 有交

順長の親吉漢も 何れ 下 吟詠

白ふさき 詠 下 早月

福成統て 詠 下 松俤

くつこゝろ 詠 下 徳富

ほろこゝろ 詠 下 和永

下 詠 下 世中

さよふて 詠 下 梅之

こゝろをいふまゝに塔の響

素月

二  
さしあふ影の流るゝまふり

如珠

飛石川もちりりて ぼろ

蕉亭

叫〜雲はさるゝ小籠は着る

只心

高きや〜火抄細札

器水

さつとさつとあ〜さつとさ

壺心

眠り慣え心のま 等

文和

陳方〜折〜 高 妙 の

ト

飽〜女房七きらぬあゝ 妙

更

あすの江花あまの〜と似て無江花

春

〜〜短少を〜〜可 走〜

利

照りほ〜く口利ふ月七暈とめ〜

空

踊よ〜〜〜 比 ぬ お 注

克

ラ 月〜あ〜西風の皮ふ杖の皮

松

風の厨あ〜い〜〜 是 初〜

松

ま〜ゆ〜〜を〜お〜〜〜 彼 娘

月

花

花

いほくさあしちか、浮気

律

静かにもういふのきと運ん

源

今人扁の地語のま

羊

名塚

夕暮やあふは君もいりし

梅之

平ふき川流の夢のまはり

梨文

うめさき月まはり時ふ

如塚

従はる家子まはりて

た克

振ふてさきあふてさきの筆

芸書

縁はる心もさきあふて

徳揚

新すき縁さきあふて

文和

水子さきあふて

和氷

子りさきあふて

日輝  
意中

積や音一際き川て

吟詠

和音やさきあふて

内月

清強はあふて

真書

さしよメる 七葉を 出でし 多し 我ら ぬ  
松俵

冬川や 海へ 舟を 送る 舟り  
舟交

凍解や ちと 浮き 出でし 借り 舟  
黒水

春を とも ぬき 舟を 舟り 舟の 葉  
末海

葉を 船の 濱りも 止ん ぬ 舟り 舟  
思心

舟り 舟や 舟り 舟り 舟り 舟り  
徳寺

舟の 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
末月

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り

豊か 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
文利

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
亀卜

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
後志

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り

舟り 表紙

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り

舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り

みの便もきくは比 翠二  
子等も月債神もはれま

あまきとよ麻も真況 瓶手

名塚

ま秋や浮すも信く地蔵堂 一

月もまきくくあや小夜 二

拂ふくまふくあまの言 女 翠二

休のおもはれまあわくは心 深氣

日新 板坂文

言ゆふく賣堂ふ青葉の言 其まき 比言

あまきとよ麻も真況 瓶手

わけまきく神もきくあめのはりて 友二

右ニツ物

名塚

松、ゆふも神もきくあめのはりて 友二

ま余もあ神もきくあめのはりて 友二



日新 天昇

前尾

日在深

徳

柔のちやいゝさ満ちてせぬま

松の根くも 水底の 雲 また

阿の 時を待たぬとも 春 雲長

ん ぬきぬきぬき 徳吉

東の海ノ 麓の川ノ 幾らゆも け吉

向 島子 ちよりの 子 柳 吉

控えて来る お構も 月の比を 留し 吟

赤ま さらさら ぬきぬき 吟

月 照く 芭蕉は けしきを 吟

こゝ 仲 新う ぬきぬき 吟

河 舟と 遠く 空の ともけ 吟

海 舟と 雲 空の ともけ 吟

舟 ぬきぬき 縁ふ 雲界と 吟

海 舟と ぬきぬき 雲界と 吟

抄

抄

若子以<sup>レ</sup>度<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>笑<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>む<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup> 交

も<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup> 修<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup> 辨<sup>レ</sup>り 以

名源

了<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>筆<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup> 却<sup>レ</sup> 牛 翠<sup>レ</sup>長

夕<sup>レ</sup>陽<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>布<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup> 其<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup> 其<sup>レ</sup>柳

岩<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup> 折<sup>レ</sup>せ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup> 以<sup>レ</sup>而

子<sup>レ</sup>乙<sup>レ</sup>女<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>明<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>せ<sup>レ</sup> 其<sup>レ</sup>く

翁<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>京<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup> 賣 徳<sup>レ</sup>旨

桑<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>柳<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>え<sup>レ</sup> 以<sup>レ</sup>香

其<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>伸<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>香 佳<sup>レ</sup>香

利<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>鴨<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup> 沢<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>香 好<sup>レ</sup>人 是<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>坊

日新 其<sup>レ</sup>ま

柳信園 周 昭

初<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>明<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup> 柳<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup> 交

穉<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>早<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup> 娘<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>友 交<sup>レ</sup>た

蘇<sup>レ</sup>了<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>候<sup>レ</sup>候<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>て 逸<sup>レ</sup>路

一<sup>レ</sup>路<sup>レ</sup>川<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>引<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup> 標<sup>レ</sup>的 琴<sup>レ</sup>路

抄

九 五

秋の月は静かに  
照らす  
静かに  
照らす  
静かに  
照らす

秋

月よ静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす

長門

秋

秋

秋

秋

秋の月よ静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす  
静かに照らす

辨

辨

之源

舟中しほく清し船中しほく

如流

おもしろく如く舟中しほく

如流

しほくしほくしほくしほく

如流

舟中しほくしほくしほく

如流

舟の葉や如くしほくしほく

如流

